

令和3年度尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業指定校(情報活用推進校)

尾道市立日比崎中学校公開研究会



研究主題

主体的な学びを促す課題発見・解決学習の創造

～カリ・マネを活かした課題設定とICTの活用など話し合い活動の充実を通して～

研究主任 石崎正恵

それでは、これより尾道市立日比崎中学校公開研究会、実践発表を始めます。

私は研究主任の石崎正恵です。よろしくお願いいたします。

今回の研究主題は「主体的な学びを促す課題発見・解決学習の創造」カリマネを活かした課題設定とICTの活用・話し合い活動の充実を通して、です。

実践発表 ～これからお話しする内容～

①取り組みの
あゆみ

②カリ・マネを
活かした
課題設定

③ICTの活用
話し合い活動

④本質的な問い

本日の実践発表では、これまでに日比崎中学校がやってきたことをまとめました。

お話しする内容は4項目です。

まず、①取り組みのあゆみ

次に、今回の公開研究会の研究主題である「②カリマネを活かした課題設定」についてと「③ICTの活用&話し合い活動」について。

最後に現在進行形で挑戦している「④本質的な問い」についてです。

①取り組みのあゆみ

H28.29

話し合い活動

- ホワイトボードを使った小集団での話し合い

強い問題意識と 達成欲求を抱かせる 課題設定

- 導入, 課題設定の工夫

それでは、これまでに日比崎中学校がやってきたことを振り返ってみます。

平成28年度、29年度に特化して行ったことが2点あります。

1点目は「話し合い活動」です。これは現在でも授業で頻繁に行っている、ホワイトボードを使った小集団での話し合い活動です。4人くらいのグループでお互いの意見を交流し合い、ホワイトボードに記入、その後黒板にはって、みんなの意見を共有する取り組みです。

2点目は、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」です。生徒がやってみたいと思えるようなインパクトのある導入を用意したり、当事者意識を持てる身近な課題を設定するなどに取り組みました。これら2点は、今も日比崎中学校の授業づくりの核になっている部分です。

①取り組みのあゆみ

H30.R1

話し合い活動

- じゃんけんでも、多数決でもなく話し合いで決める
- 現3年生が1年生の時から始動



広島県中学校特別活動研究大会

次に、平成30年度広島県中学校特別活動研究大会を行ったことをきっかけに始めた取り組みをご紹介します。それが、じゃんけんでも多数決でもなく話し合いで決める学級会の運営です。学級会では、議長団が中心となり、教師はサポート役。先ほどご紹介した、ホワイトボードを使用した少人数班での話し合い活動も取り入れながら、進めていきます。意見を出し合い、クラスで共有し、共感したり質問したりすることで内容を深めていき、合意形成を行っています。また、クラスで決めたことから個人の目標を考える意思決定のための話し合い活動も、特に行事の前後で行ってきました。

現3年生が1年生の時に始まった取り組みで、今では議長団を中心に話し合いの方法が定着しています。

①取り組みのあゆみ 昨年度

HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT

- リーダーが中心となり縦割り集団で南海トラフ巨大地震にそなえる実践的取り組み

生徒会行事 赤船祭

- 体育的行事と文化的行事を組み合わせた新しい行事
- リーダーが中心となり「ええじゃん」を縦割り集団で披露

次に、昨年度から始まった2つの取り組みをご紹介します。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、休校が続いたり、体育祭や尾道みなと祭りのええじゃんが中止になるなど、生徒・教員にとって、できないことがたくさんありました。

①取り組みのあゆみ 昨年度



生徒会行事 赤船祭

- 体育的行事と文化的を組み合わせた新しい行事
- リーダーが中心となり「ええじゃん」を縦割り集団で披露

そんな中でも何かできないかと、生徒会と教員で話し合い、誕生したのが赤船祭という行事です。体育祭で行っていた内容と文化祭で行っていた内容をドッキングさせ、更に3年生が伝統的に踊ってきたええじゃんを、ええじゃん合戦という応援合戦形式にして全校で取り組みました。生徒会のオープニングセレモニーでは3年生が毎年行ってきた赤龍太鼓の披露も行われ、伝統をつなげるという思いが詰まった内容となりました。

HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT

- リーダーが中心となり縦割り集団で南海トラフ巨大地震にそなえる実践的取り組み

①取り組みのあゆみ
昨年度



もうひとつ新たに、総合的な学習の時間で「日比崎サバイバルプロジェクト」通称サバプロの取り組みが始まりました。これは、3年前に起こった西日本豪雨がきっかけとなり、いつか必ずやってくる南海トラフ巨大地震に備えてさまざまな方面からアプローチするプロジェクトです。

①取り組みのあゆみ

リーダーを中心に生徒主体



憧れ感・達成感・リーダー像

これら2つの取り組みに共通することは、リーダーが中心となり生徒主体で行ったということです。サバプロや赤船祭だけでなく、これまでやってきた「議長団を中心とした話し合い活動」や「リーダー中心に生徒主体で動く行事」「一生懸命な姿への憧れを抱く日々のさまざまなこと」が作用していき、生徒の中に★「憧れ感・達成感・リーダー像」があったように感じます。それが姿としてあらわれたのが、今年度3年生が取り組んだええじゃんです。



①取り組みのあゆみ
今年度ええじんの取り組み

- リーダーが主体で練習
- リーダーが振り付けや隊形移動も考案
- 教師はサポート

**サバプロ・赤船祭が
生徒主体の「ええじん」へと繋がった**

このええじんの取り組みは、リーダーが主体で練習を運営しました。もちろん振り付けや隊形移動も生徒達の方で作りあげました。わたしたち教師はサポートのみでした。

★ここまでご覧いただいたさまざまな経験が生徒主体のええじんへと繋がったのだと確信しています。

①取り組みのあゆみ
今年度の取り組みスタート

- 「生徒主体」「生徒発信」にこだわって
サバプロ・赤船祭をやっていこう！
- この2大行事が**日比崎中学校のコア**となる

このような流れがあり，今年度は「生徒主体」「生徒発信」にこだわってサバプロ・赤船祭をやっていこうとしています。

もちろん行事だけでなく，日常生活のさまざまなことが相互に作用していきます。この2大行事を日比崎中学校のコアとしいろいろなところに波及させていくというイメージです。

②カリ・マネを活かした課題設定

今回の研究授業では…

コアであるサバプロ・赤船祭を意識した課題設定



より、生徒たちが身近に感じられる課題となった。

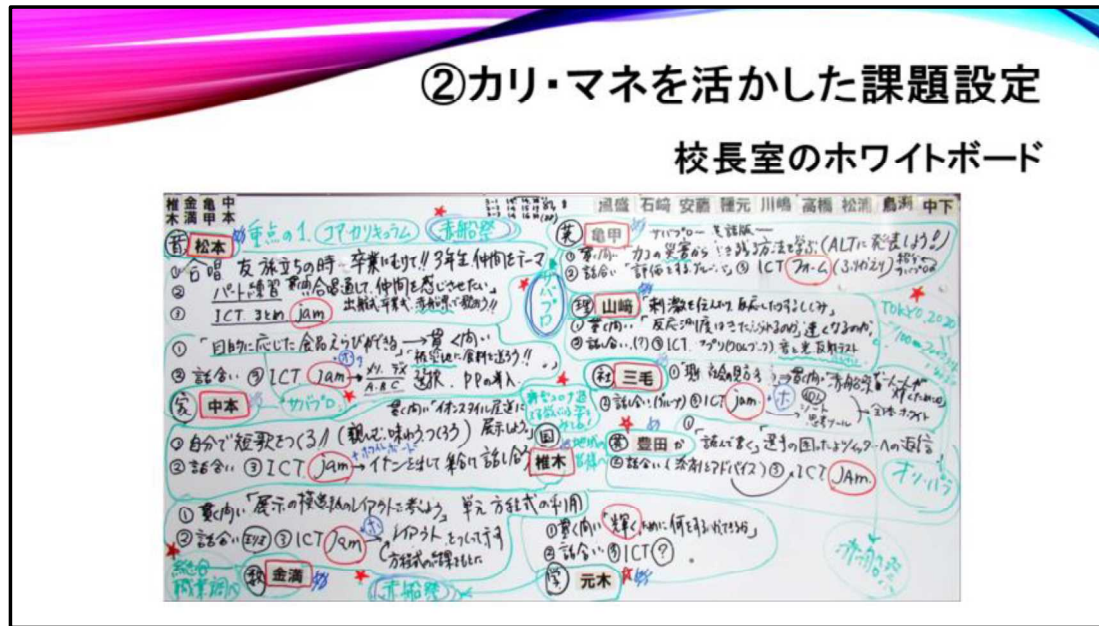
本日お話しする内容2つ目は「カリマネを活かした課題設定」についてです。

今回の研究授業では、多くの教科でコアであるサバプロ・赤船祭を意識した課題設定がされました。

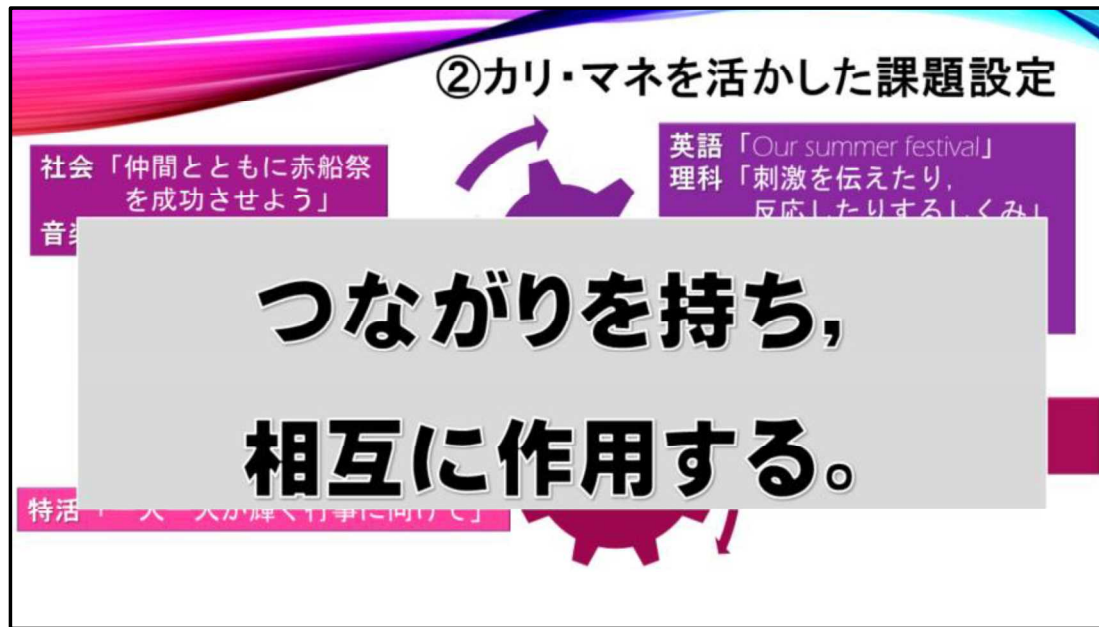
★自分たちが取り組んでいる行事に関連した課題ということで、より生徒達にとって身近に感じられる課題となりました。

②カリ・マネを活かした課題設定

校長室のホワイトボード



この写真は校長室のホワイトボードの写真で、先生方が授業のアウトラインを決めた頃に書かれたものです。昨年度は、英語科と美術科でサバプロに関する授業を行ったのですが、今年度より多くの授業でサバプロや赤船祭に関連した課題となりました。



分類するとこのようになります。

★コアとなるサバプロ・赤船祭，そして各教科。

★それぞれが，つながりを持ち，相互に作用しているイメージです。

そしてそれらの中で共通して行っていることがあります。

③ ICTの活用・話し合い活動 本日の研究授業の様子



ICTの活用



話し合い活動

それが、ICTの活用・話し合い活動です。

これらは本日の研究授業の様子です。

★数学の授業では、Chromebook上で図を動かしながら思考しています。

★音楽の授業では、パートごとにわかれ、意見をかわしながら歌っていきました。

③ ICTの活用・話し合い活動

**Jamboardを取り入れ、
少人数での話し合いや
クラス全体での
意見・知識の共有を行っている。**



現在Chromebookで行っている主な活動はこの表のとおりです。

話し合い活動や、行事、振り返りなどさまざまな場面で活用しています。

中でもJamboardを取り入れた話し合い活動をたくさん行いました。

Jamboardとは、ひとつの画面にそれぞれの端末から意見を書き込めるアプリで、意見や知識の共有をすることができます。

全員の意見をひとつの画面に表示することが難しかったり、意見を書き込む時にコミュニケーションが少なくなるデメリットがありますが、

★本日行われた複数の教科では、ホワイトボードやプリント、現物の参考資料を用意するなどして、それらを改善していました。



これは道徳で使用したJamboardです。

短時間で意見を可視化できるので、このようにキーワードを見つけたりすることが簡単にできるメリットがありました。

道徳で、自分の考えを発表するのが苦手という生徒が多かったのですが、Boardに一度書いて、他にも同じ意見の人がいることがわかったり、みんなに意見を認められたりすることで、発表への抵抗がやわらぎ、意見を伝えやすくなっています。

③ ICTの活用・話し合い活動

9月16日(木) 話し合い活動の様子

議題「赤船祭やサバプロなどを通してどう輝きたいか？」

- ・ 2大行事を通してどんな人間になりたいかを出し合った
- ・ 行事を成功させることだけを目標とせず、「その先の姿」をイメージする



=「本質的な問い」

これは、9月16日に行われた話し合い活動の様子です。

この時にはJamboardは使用せず、ホワイトボードに意見を書いていきましたが、道徳の時間より自信をもって意見を共有している姿が見られました。

ICTもアナログもどちらも利点があり、また、相互に作用していると感じました。

議題は「赤船祭やサバプロなどを通してどう輝きたいか？」

単純に行事を成功させるだけでなく、これらのことを通してどんな人間になりたいか、とても大きい視野で意見を出し合うことをしました。

取り組みの終わりまでだけでなく、その先の姿をイメージする。

★まさに「本質的な問い」です。

④本質的な問い

今回どの授業でも「本質的な問い」

(=知識や技能だけではない、生涯くりかえし考えていく普遍的な問い)を考えた

生活を豊かにする
食品の選択とは

この曲を通して
みんなの想いを
どうつなげるか

身の回りにある対立関係や
問題点を捉え、合意形成する
にはどうすればよいだろうか

2大行事をコアとして、
各教科さまざまな角度からの「本質的な問い」

知識や技能だけではない、生涯繰り返し考えていく普遍的な問いである「本質的な問い」を今回どの授業でも考えました。

例えば、総合的な学習の時間に関わる課題設定であった家庭科では、本質的な問いを「生活を豊かにする食品の選択とは」としています。

生徒会行事赤船祭に関わる課題設定であった音楽科・社会科では、それぞれ本質的な問いを「この曲を通してみんなの想いをどうつなげるか」「身の回りにある対立関係や問題点を捉え、合意形成するにはどうすればよいだろうか」としています。

そこには、2大行事をコアとして、各教科さまざまな角度からの「本質的な問い」がありました。

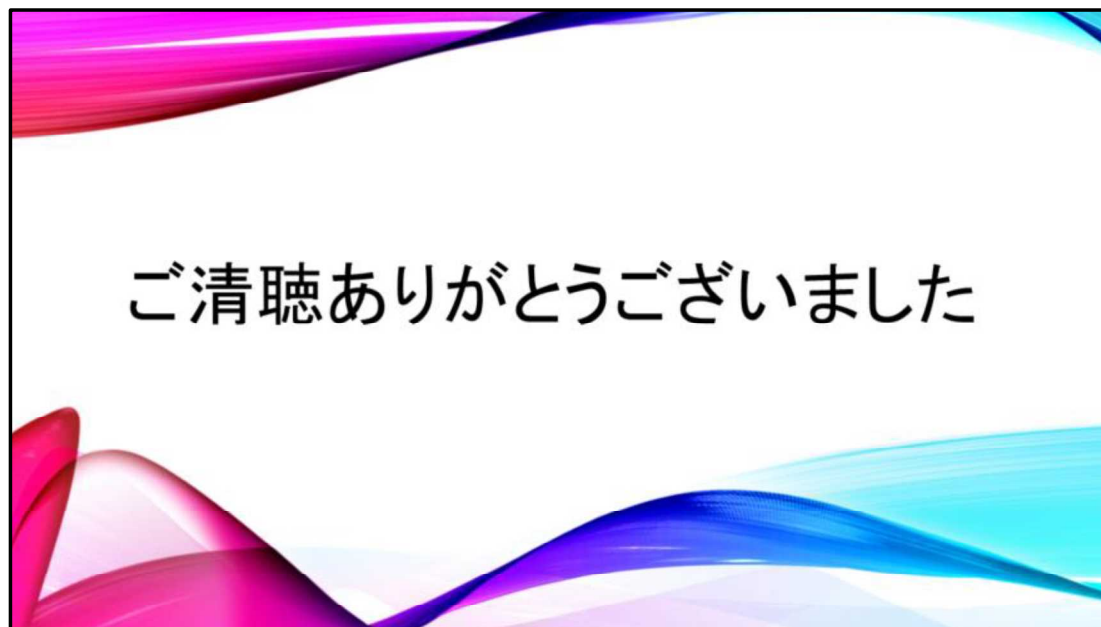
④本質的な問い

日比崎中学校のこれから
～挑戦～

**2大行事をコアとし、
一年間かけて生徒と一緒に
「本質的な問い」を見つける。**



現在、日比崎中学校は、サバプロ・赤船祭という2大行事のスタートをきったところです。
これから先、行事や日々の生活・教科の授業の中で、たくさんの「本質的な問い」を生徒と一緒に見つけてきましょう。



ご清聴ありがとうございました。